

第2回機関評価・中期計画検討委員会等における主なご意見について

令和2年12月

1. 科学技術・学術政策研究所における政策研究の在り方について(骨子案)

- コロナ禍による社会の変革を念頭に、現時点での人材流動性に関するデータを意識的に収集してはどうか。
- 市民参加型(civil tech)の調査研究を検討すべきである。
- オープンサイエンスに関して、調査研究を引き続き実施するだけでなく、データの質の担保についても留意すべきである。
- 分野固有のカルチャーを踏まえた分析を考慮してほしい。
- 他機関の研究者でも解析できるよう、データ公開基盤を検討してほしい。
- 種々のデータを統合的に扱えるような動きに貢献してほしい。
- 国民とのコミュニケーションは重要である。国民の関心を得るためには、NISTEP が政策に役立っていくことが大切。
- NISTEP は良い調査研究が多くあるが、それが社会に伝わっていないと感じるので、広報活動などアウトリーチにも力を入れていくと良い。
- 研究は人類にとって重要というメタなレベルの話に関するアウトリーチ活動も是非行って欲しい。

2. 本中期計画期間中に見込まれる活動実績に係る機関評価について(案)

- 大学等の研究機関や企業との協働を進めるため、インターン制度を活用してはどうか。
- どのような政策に反映されたのかなど、研究成果の波及効果についても触れたほうが良いのではないか。
- オープンサイエンスに関して、調査研究を引き続き実施するだけでなく、データの質の担保についても留意すべきである。
- 中期計画期間中に新たに得られた知見や新たに開始した活動等は明記すべきではないか。
- 中期計画策定時には想定していなかったコロナ禍の対応について、特記事項として記録してはどうか。
- 有用なデータが蓄積されているがまだ十分に活用されていない。アウトリーチの視点からの評価があるといいのではないか。